SUPERBIKE EXPRESS

EXtra, EXpert and EXtreme

AUTOPOLIS SUPER 2&4 RACE 2018

2018 All Japan Road Racing Championship Round 3

2018 SUPERBIKE EXPRESS 03

JSB1000 ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

QUALIFY to RACE1

OFFICIAL REPORT

開幕から4戦連続でポールtoウィンを飾り、今回もポールポジションを獲得した中須賀克行選手。しかもコースレコードを更新と、その勢いはとどまるところを知らない。

今回、中須賀選手に破られるまではオートポリスのJSB1000クラスコースレコードホルダーだった渡辺一樹選手は予選2番手。

Kawasaki Team GREENで2年目のシーズンとなる渡辺一馬選手は予選5番手。地の利を生かしてどう戦う!?

中須賀克行が驚異的なタイムでポールポジション！ ヨシムラの渡辺一樹、津田拓也がフロントロウ!! 虎視眈々と勝利を目指す渡辺一馬

全日本ロードレース選手権はシリーズ第3戦を大分県・オートポリスで迎え、今回もスーパーフォーミュラとの2&4レースとなる。開幕戦、第2戦と2レース制で行われてきたJSB1000クラスだが、今回は日曜日に1レースのみの開催となる。

金曜日、土曜日と快晴に恵まれ、各ライダーはマシンをセットアップ。初日はカワサキのエースとなって2年目となる渡辺一馬が1分48秒201でトップタイム。ここまで開幕4連勝中の中須賀克行は1分48秒335で2番手、3番手にカワサキ時代の2014年にマークした1分47秒657というコースレコードホルダーであり、ヨシムラで初めてオートポリスを走る渡辺一樹が1分48秒788で続き、上位3名が1分48秒台をマークしていた。

土曜日も快晴となり、午後に行われた公式予選が始まるころの路面温度は48度だった。今回の予選セッションは今シーズン初めてノックアウト方式となり、まず45分間のQ1が行われた。ここで速さを見せたのは中須賀だった。計測5周目に1分48秒034をマークし、このタイムを破る者は現れず、Q1をトップで通過。2番手に野左根航汰が1分48秒703で続き、ヤマハファクトリーが1-2。3番手に渡辺一馬、4番手に津田拓也、5番手に高橋巧、6番手に渡辺一樹、7番手に松﨑克哉、8番手に秋吉耕佑、9番手に高橋裕紀、10番手に水野涼というトップ10がQ2に進出した。

15分間で行われたQ2。徐々に路面温度は下がる方向だったが、それでも43度というコンディション。10名のライダーがピットアウトしコースに入る。中須賀はコースの状況を確かめるとピットに戻りタイヤを交換。再びコースに戻ると計測ラップに入って行く。ここで1分46秒909という、これまでのコースレコードを大幅に更新する驚異的なタイムがマークされる。「この1周は、とにかく集中しましたね。その後の2周はもうタイムが落ちていく一方でしたけれど、最初の1周は決まったと思いました。まさか46秒9まで行くとは思いませんでしたね」と中須賀本人も驚きのタイムだった。その後もタイムが落ちたとはいえ、1分47秒台を記録している。2番手の渡辺一樹が1分48秒249だったことを考えれば、いかに中須賀のタイムが抜きん出ているかが分かるだろう。

渡辺一樹、津田拓也とヨシムラ勢が続きフロントロウ。渡辺一樹はヨシムラで3レース目だが、ここオートポリスはカワサキ時代に走り込んだコースだけにうまくマシンをまとめてきた。一方、津田は今シーズン変更した部分をまだ生かし切れていないと語るが、そこがいい方向にまとまれば中須賀に近づいていけるはずだ。

4番手の野左根は「今の実力だと思います。中須賀選手に少しでも近づこうと努力している最中ですが、そう簡単には行きませんね。ただ、チームとしていい結果を残せるように全力を尽くします」とコメント。5番手には初日トップタイムをマーク。カワサキのホームコースで期待がかかる渡辺一馬がつけた。「スーパーフォーミュラのタイヤラバーの影響か風の影響か、前日とはフィーリングが変わってしまい、思うように攻めることができませんでした。ただ、対策はできているのでレースは大丈夫だと思います」と、こちらも決勝に向けては自信のコメント。2列目最後となる6番手には10年振りに復活したHondaワークス、Team HRCを引っ張る高橋巧がつけたが、初日からオートポリスは苦戦模様だ。

「全く気持ちよく走ることができていません。予選でも違うタイヤ、セットを試してみましたが、ドライでは全くいい方向が見えてきていません。決勝は雨予報なのでまだレインコンディションの方がいい結果を出せる自信はありますね」とドライよりもレインを望んでいる。

日曜日の天気予報は雨となっており、その雨量によってもレース展開は変わってきそうだ。雨を得意としている秋吉耕佑、加賀山就臣、星野知也なども上位に進出してくる可能性もありそうだ。決勝日朝のウォームアップ走行の順位に注目しよう。

Text : Toshihiro Sato & SUPERBIKE.JP / Photo : Toshihiro Sato / Issued by SUPERBIKE.JP©2018

JSB 1000 QUALIFYING PRACTICE RESULT & INTERVIEW

ポールポジション：1'46.909（コースレコード）
＃21　中須賀克行　YAMAHA FACTORY RACING TEAM

「コースレコードでポールポジションを獲ることができて素直にうれしいですね。これほどタイムも伸びると思っていませんでしたから。これで、今、全日本JSB1000クラスが開催されているサーキットのレコードを全て更新することができました。タイムを出した周は決まったと思ったので、1分47秒5くらいかと思っていましたけれど、1分46秒9だったのでちょっと出し過ぎでしたね。これもQ1の45分を使ってい方向にマシンセットができたからですね。チームもよろこんでくれたのでよかったです。1戦1戦勝つことを目標に走っていますし、それが結果につながっています。100%力を出し切ったライダーが表彰台の中央に立つと思いますし、今回も雨でも晴れでも応援してくださる皆さんの前でい走りをしたいですね。」

予選2番手：1'48.249
＃26　渡辺一樹　ヨシムラスズキMOTUL

「開幕戦、第2戦とヨシムラGSX-R1000にも慣れて来ましたし、セットアップも進んできています。一歩ずつ積み重ねてきた結果が今回の2番手タイムにつながっています。チームとしても津田選手と2、3番手につけられたのでいい方向に進んでいると思います。オートポリスはカワサキ時代に走り込ませてもらっているのでコースにマシンを合わせる理想がありましたが、実際にマシンを仕上げてくれたチーム力があってこそだと思います。決勝は雨予報ですが、開幕戦の予選でレインコンディションを走ったフィーリングはよかったです。天候次第で流れが変わるかもしれませんね。」

予選3番手：1'48.437
＃12　津田拓也　ヨシムラスズキMOTUL

「予選3番手とはいえトップと1秒以上離されていますし、金曜日に転倒もありました。ここまでレースウイークの流れは決して順調とは言えませんが、その中でポジティブな部分もありますし、状況変わる中でもトップを追いかけたいですね。開幕戦、第2戦といい流れをレースで作ることができていないので、今回こそチーム一丸となって全力で戦えるように気を引き締めて臨みたいと思っています。」

公式予選結果

●予選：5月12日（土）天候／晴れ 路面／ドライ 出走28台
●決勝：5月13日（日）レーススタート／12：10（20周）

Pos.	No.	Rider	Machine	Team	Best Time
1	21	中須賀 克行	YZF-R1	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	R1'46.909
2	26	渡辺 一樹	GSX-R1000L8	ヨシムラスズキMOTUL	1'48.249
3	12	津田 拓也	GSX-R1000L8	ヨシムラスズキMOTUL	1'48.437
4	5	野左根 航汰	YZF-R1	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	1'48.462
5	11	渡辺 一馬	ZX-10RR	Kawasaki Team GREEN	1'48.729
6	1	高橋 巧	CBR1000RR SP2	Team HRC	1'48.855
7	090	秋吉 耕佑	CBR1000RR SP2	au･テルル･MotoUP RT	1'48.964
8	634	水野 涼	CBR1000RR SP2	MuSASHi RT HARC-PRO. Honda	1'49.278
9	15	松﨑 克哉	ZX-10RR	Kawasaki Team GREEN	1'50.066
10	72	高橋 裕紀	CBR1000RR SP2	MORIWAKI MOTUL RACING	1'51.443
***** 以上 Qualifying 2 にて決定 *****					
11	71	加賀山 就臣	GSX-R1000	Team KAGAYAMA	1'49.733
12	75	前田 恵助	YZF-R1	YAMALUBE RACING TEAM	1'49.764
13	35	近藤 湧也	YZF-R1	JOYNET GBSレーシング YAMAHA	1'50.232
14	51	Zaqhwan Zaidi	CBR1000RR SP2	Honda AsiaDream	1'50.410
15	23	清成 龍一	CBR1000RR SP2	MORIWAKI MOTUL RACING	1'50.484
16	20	日浦 大治朗	CBR1000RR SP2	Honda Suzuka Racing Team	1'50.777
17	7	濱原 颯道	CBR1000RR SP2	Honda Dream RT 桜井ホンダ	1'51.012
18	25	生形 秀之	GSX-R1000	エスパルスドリームレーシング･IAI	1'51.051
19	14	中冨 伸一	YZF-R1	HiTMAN RCKOSHiEN YAMAHA	1'51.168
20	46	星野 知也	S1000RR	TONE RT SYNCEDGE4413	1'51.792
21	40	小島 一浩	CBR1000RR	Honda緑陽会熊本レーシング	1'52.054
22	70	清末 尚樹	ZX-10RR	チーム阪神ライディングスクール	1'52.205
23	34	岡村 光矩	ZX-10RR	KRP三陽工業&RS-ITOH	1'52.266
24	31	津田 一磨	YZF-R1	Team BabyFace	1'52.798
25	22	児玉 勇太	YZF-R1	TEAM KODAMA	1'53.430
26	90	吉田 光弘	CBR1000RR	Honda緑陽会熊本レーシング	1'53.572
27	44	樋口 耕太	GSX-R1000L7	H.L.O RACING	1'54.551
28	37	須貝 義行	RSV4RF	チームスガイレーシングジャパン	1'54.558

***** 以上 Qualifying 1 予選通過基準タイム (1'57.212 - 108%) *****
Q1: StartTime：14:25'00／FinishTime：15:05'00
Q2: StartTime：15:15'00／FinishTime：15:30'00
※「R」はコースレコードです（従来のレコード／(1'47.657)
タイムは、Q1、Q2、それぞれのセッションでのタイム順です。

JP 250

DUNLOP
Presented by
DUNLOP
http://jp250.superbike.jp/

激しいバトルを制し、笠井悠太が総合優勝！

併催されたMFJカップJP250選手権第2戦の決勝レースでは、2番グリッドからスタートした成田彬人がホールショットを奪うと、そのまま後続を引き離すことに成功する。ポールポジションスタートの笠井悠太が3周目に成田の背後に接近すると、同じ周のジェットコースターストレート先60Rでパス。後続を引き離したその2台はその後も激しく順位を入れ替えるバトルを展開したが、笠井、成田のオーダーでチェッカーを受け、笠井が総合&インタークラスの優勝を決めた。ナショナルクラスのウィナーに輝いたのは総合3位の片山千彩都だった。

INFORMATION

RIDE & DRIVE 全日本ロードレース&全日本モトクロスを無料放送

MFJが管轄するロードレース、モトクロスの各全日本選手権シリーズ全戦が、無料BS放送のBS12（番組名「RIDE&DRIVE」）で、モーターサイクルスポーツバラエティとして放送！ 放映日時は毎月最終金曜の21:30～22:00になりました。
★詳しい放映スケジュール等はファンサイトで！
《放映スケジュール》
12月の総集編まで毎月最終金曜の21:30～22:00に放送!!
BS12 TwellV

インターネットライブ中継&動画配信も充実!!
MFJ Live CHANNEL
全日本ロードレース選手権は全戦・全クラスの予選・決勝をライブ配信! 今年からカメラ位置・アングルを充実、より迫力ある映像をお届けします。※通信環境によりディレイ配信となる場合もあります
YouTube YouTube「MFJ SUPERBIKEオフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!
詳しくはファンサイトで → http://superbike.jp/